

研究課題：口腔ケア介入による高齢者の全身栄養状態の維持・改善効果に関する研究

研究者名：角 保徳<sup>1)</sup>、梅村長生<sup>2)</sup>

所 属：<sup>1)</sup> 国立長寿医療センター病院先端医療部口腔機能再建科、<sup>2)</sup> 愛知三の丸病院歯科口腔外科

**【研究目的】** 要介護高齢者においては低栄養の発現率は高いことが知られている。低栄養状態が、要介護高齢者の要介護状態の重症化を招き、さらに、体力低下や死亡に大きく関与していることも知られており、QOL 維持・向上の観点から見逃すことはできない。口腔状態と栄養状態に関する調査はいくつか報告されているが、口腔ケア介入による要介護高齢者の栄養状態の維持・改善に関する報告は少なく、無作為に 2 群に分けた介入研究は見られない。本研究の目的は要介護高齢者に 1 年に及ぶ口腔ケアによる介入を行い、継続した口腔ケアが要介護高齢者の栄養状態への影響を評価することにある。

**【対象と方法】** 無作為に 2 群に分けた特別養護老人ホーム入所要介護高齢者に、口腔ケア支援機器による 1 年間に亘る口腔ケア介入を行い、①Body Mass Index (以下 BMI) および②HDL コレステロール値を研究開始時および介入 1 年の時点で測定し、比較検討を行った。介入前後でデータの採取できた対象者は、口腔ケア介入群は 27 名、対照群は 26 名であった。統計ソフトは SPSS を用い、介入前および介入後の各時点での指標の比較については 2 群間の有意差の有無を統計的に評価した。

**【研究結果】** 口腔ケア介入による BMI の変化は、口腔ケア介入群では、介入前で  $20.86 \pm 3.06$ 、介入後で  $20.88 \pm 4.01$  と介入前後でほとんど変化がなかった。一方、対照群では、介入前で  $20.68 \pm 4.33$ 、介入後で  $19.67 \pm 3.65$  と有為 ( $P < 0.05$ ) 低下した。口腔ケア介入による HDL コレステロール値の変化は、口腔ケア介入群は、入前で  $52.08 \pm 15.40$  mg/dl、介入後で  $49.88 \pm 15.59$  mg/dl と低下傾向は示したが、介入前後で有意差はなかった。一方、対照群では、介入前で  $54.08 \pm 11.85$  mg/dl、介入後で  $51.46 \pm 13.21$  mg/dl と有為 ( $P < 0.05$ ) に低下した。

**【考察】** 栄養状態の客観的評価指標として選択した①BMI および②HDL コレステロール値が、口腔ケア介入群では介入前後で有意な低下を認めないにも拘わらず、対照群では全ての指標で 1 年後に統計学的に有意に低下した。このことは要介護高齢者に対する口腔ケアの長期介入が要介護高齢者の栄養状態を維持させる可能性が示唆された。高齢者の低栄養状態を予防・改善することは、内臓タンパク質及び筋タンパク質の低下を予防・改善し、身体機能及び生活機能の維持・向上及び免疫機能の維持・向上を介して感染症を防止し、高齢者が要介護状態や要介護状態の重度化へと移行を予防し、QOL の向上に寄与する。

**【結論】** 本研究の結果より、継続的な口腔ケアの施行が高齢者の全身の健康状態の維持において必要であることを提言したい。口腔ケアの普及は要介護高齢者の栄養状態の維持・改善の観点からも重要な課題と考えられた。